

第 69 回 コンパス薬局藤沢 スキルアップ勉強会

2021. 2. 25 上野香奈子

『リベルサス錠 3mg/7mg/14mg』

ノボ ノルディスクファーマ(株) 佐藤さん

場所：コンパス薬局藤沢

参加者：沢先生、内科職員さん、木村亜希子、鈴木里菜、吉井智子、藏田桃子、
清田好美、安元穂子、鈴木亜湖、小林昌美、上野香奈子

リベルサス錠は、2型糖尿病に適応を有し、オゼンピック注と同じリラグルチドを有効成分とする世界初の経口 GLP-1 受容体作動薬である。

【効能・効果】

2型糖尿病

【用法・用量】

通常、成人には、セマグルチド（遺伝子組換え）として1日1回7mgを維持用量とし経口投与する。ただし、1日1回3mgから開始し、4週間以上投与した後、1日1回7mgに増量する。なお、患者の状態に応じて適宜増減するが、1日1回7mgを4週間以上投与しても効果不十分な場合には、1日1回14mgに増量することができる。

【禁忌】

- 1) 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
- 2) 糖尿病性ケトアシドーシス、糖尿病性昏睡又は前昏睡、1型糖尿病の患者 [インスリン製剤による速やかな治療が必須となるので、本剤を投与すべきでない。]
- 3) 重症感染症、手術等の緊急の場合 [インスリン製剤による血糖管理が望まれるので、本剤の投与は適さない。]

【副作用】

重大な副作用：低血糖、急性膵炎

頻度 5%以上の副作用：悪心、下痢

【特徴】

世界初の経口 GLP-1 受容体作動薬。

腎機能肝機能障害、高齢者であっても用量調節なく使用可能。

吸収促進剤である SNAC(サルカプロザートナトリウム)を 1 錠中 300mg 含有し、リラグルチドを胃内での分解から保護している。(SNAC が多くなるとセマグルチドの吸収が低下するため、14mg/回服用する場合に 7mg 錠 2 錠を服用することは不可。)

トルリシテ注と比較して、リベルサス 14mg で有意な HbA1c 低下効果を得られる。また、リベルサス 7mg あるいは 14mg で有意な体重減少効果を得られる。

リラグルチドの吸収は胃内容物により低下するため、起床時に 120mL 以下の水で服用し、服用後 30 分は飲食及び他の薬剤の経口摂取を避ける。

吸湿性が強いいため、シートはミシン目以外で切らず、服用直前にシートから取り出す。

【考察】

2 型糖尿病の治療において、これまで注射剤のみであった GLP-1 受容体作動薬を経口剤にすることで、患者さんにとって負担の少ない利便性の高い治療薬だと考えられる。

服用や保管に注意点の多い薬剤であり、患者さんにも十分理解していただくよう指導が重要である。

また、DPP4 阻害剤との併用は避ける、他の経口血糖降下薬の服用がない患者に投与する場合は使用理由を診療報酬明細書に記載する必要があるなど、保険診療における留意事項があることにも注意が必要である。

【質疑応答】

Q1

併用注意薬レボチロキシンの曝露量増大のメカニズム

A1

セマグルチドによる胃内容排出の遅延による

(他の GLP-1 受容体作動薬においても消化器証症状の副作用が出ることがあるため、同様の相互作用がある可能性も否定はできない)

Q2

インスリンのみ使用中の患者についてもレセプトに使用理由記載が必要か

A2

経口血糖降下薬の服用がない場合、理由記載が必要